

ましまし会館前広場再整備のための ワークショップ便り

ver.1.0

3

きらきら会館前広場再整備のアイデアをワークショップで検討することになりました。
4回にわたるワークショップの模様をお届けします。

第3回ワークショップが開催されました！

17名
が参加

日時：2025年7月27日（日）9時から12時
場所：京島第二集会所（きらきら会館）

ガイダンス

全4回構成のワークショップの第3回目で、これまでの検討結果を踏まえて3つの広場整備案を元に広場の空間像の具体像を検討する回でした。冒頭で森さんからの挨拶と松浦先生の進行説明、続いて学生から前回の振り返りの紹介がありました。



ミニレクチャー

大木一さん（株式会社オットー・デザイン）のレクチャー「まち」と「みどり」の生態系を育むランドスケープデザイン」では、①使われ方を含めて設計する「場と活動の一体デザイン」、②現地スケールで試す草地放置やバイオネストなどの循環型維持管理実験、③月例イベントによる住民ニーズと管理担い手の掘り起こし、④模型・実寸体験を交えた市民参加型ワークショップで合意形成を進める手法が紹介され、人と自然の小さな生態系を重ねて育むアプローチの必要性が示されました。



グループワーク（ロールプレイングゲーム・個別課題対応ゲーム）/ 全体発表

グループワークでは3チームに分かれて、3つの提案模型を20分毎に廻し、良い点・問題点・改善アイデアをポストイットに貼っていきましました。最後に部位ごとに最も良かった案にシールを貼りました。全体発表では、ロールプレイングカードと生活シーン／空間イメージカードを用いたゲーム形式を通じて抽出したアイデアが整理され、①電柱移設と看板位置変更による開放的視界と回遊性の確保、②ベンチと壁面緑化で境界を柔らかく区切りつつ自転車放置を抑制、③掲示板とデジタルサイネージを統合した情報発信、④石ベンチ再生とパーゴラ・在来花壇で日陰と季節感を創出、⑤雨水ポンプを活かした水遊び兼防災機能の付加、⑥透水性・保水性舗装や弾性床による熱環境の緩和、⑦災害対応ベンチと監視カメラで安全性を高める、という7つの共通提案が導かれ、商店街側ゾーンと会館側ゾーンの機能分担と運営課題が共有されました。共通課題は「維持管理と防犯を担保しつつ、街と連続した開放的な日常広場を実現すること」、提案の方向性としては、「透水性・メンテナンス容易な床面」、「可動・日陰・防犯を意識したベンチ」、「更新容易な情報発信手段（サイネージ／掲示板）」、「ゴミの外周集約と回収フローの確立」、「ポンプ・水遊び＋防災機能の両立」、「可変的境界で商店街とのシームレスな賑わい導入」が出されました。次回課題として、上記を盛り込んだ統合案の具体化と、運営主体・ルール設計の詳細の協議が挙げられます。総評で大木さんは「運営体制と空間設計は表裏一体。管理負担を特定主体に集中させない仕組みが必須」「日常利用の質を高める発想（ベンチ・境界の開放性等）をもう一段深めるべき」「仮設的トライアル（例：可動ベンチ設置・ボール一時撤去）で実証しながら合意形成をすべき」と総括しました。



次回に向けて

次回9月28日には本日の検討結果を基にして千葉大の学生がデザイン案と模型を提示し、参加者がブラッシュアップを行い、10月頃に最終案を発表・展示する予定です。

編集：千葉大学都市計画松浦研究室

発行年月日：2025年8月15日

発行：墨田区役所



RPI 株式会社 地域計画連合
Regional Planning International Co., Ltd.



総括・B班担当



松浦 健治郎 准教授

A班担当



藤巻 胡桃

C班担当



森田 夏瑞樹

グループワークの結果 (Aチーム)

ましまし会館前広場再整備
のためのワークショップ 便利

3

C案 「まちなかオアシス —遊びと学びのグリーンラウンジ—」

- 良い点
- 悪い点
- 改善のアイデア



【特徴的な要素】

- ・人工芝とクッション舗装による安心・安全な広場
- ・樹木周囲の水盤とベンチで涼を空間
- ・路地尊や壁面緑化による環境演出
- ・折戸による屋内外の一体的活用

	① 床の舗装	② ベンチ	③ 商店街の地図看板	④ ゴミ回収BOX	⑤ 樹木・手押しポンプ	⑥ ボード	⑦ 会館の境界部分	⑧ 敷地境界部分	⑨ 照明
A 案	波紋（透水性舗装）・レインガーデン	敷地境界沿いに光るベンチ	敷地境界付近に壁掛けのデジタルサイネージ	敷地境界付近に折り畳み式ゴミ回収BOX	樹木付近にレインガーデン整備（手押しポンプ、石は残す）	敷地境界線上に移動	ビニールカーテンで開閉（屋内外を一体的に活用可能）	木製ルーバーで覆う	ベンチの足下が光る
B 案	商店街と同じ舗装（商店街との連続性を意識）	敷地境界沿いにパーゴラとベンチ	敷地境界付近にデジタルサイネージ（斜め置き）	敷地境界付近にデジタルサイネージの下部に設置	樹木を残し、道路境界線沿いをグリーンスペースとする（手押しポンプ、石は残す）	現状と同じ位置	全面ガラス貼り	隣の建物の外壁と同系色のフェンス	パーゴラが光る
C 案	人工芝と川とグレー（クッション素材）	樹木の周りに水盤＋ベンチ	現状の位置に低い地図看板	現状の位置に地図看板の裏に設置	樹木を残し、路地尊を設置	現状より内側に設置	折れ戸で開閉可能（屋内外を一体的に活用可能）	壁面緑化	ボードが光る
その他				不要					

グループワークの結果 (Bチーム)

ましまし会館前広場再整備
のためのワークショップ 便利

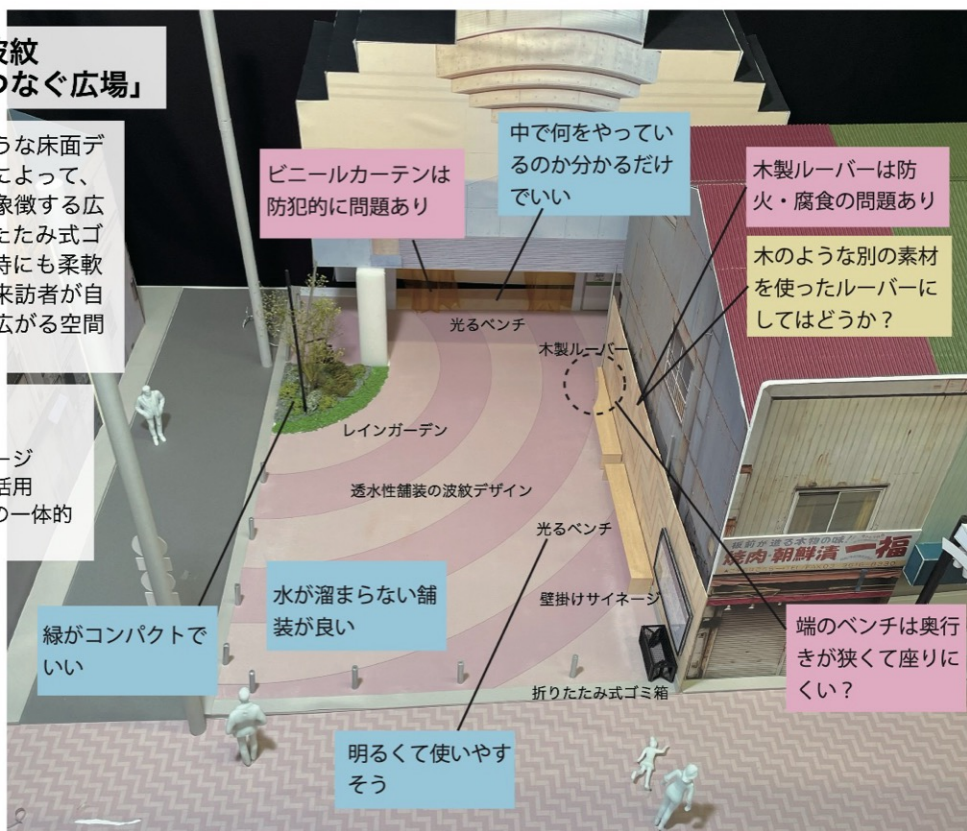
3

A案 「にぎわいの波紋 —光と雨水がつなぐ広場—

透水性舗装による波紋のような床面デザインと、レインガーデンによって、水の循環と自然との共生を象徴する広場です。光るベンチや折りたたみ式ゴミ箱など、夜間やイベント時にも柔軟に活用できる機能を備え、来訪者が自然と集まり、交流の波紋が広がる空間を目指します。

【特徴的な要素】

- ・透水性舗装の波紋デザイン
- ・光るベンチと壁掛けサイネージ
- ・レインガーデンによる雨水活用
- ・ビニールカーテンで屋内外の一体的利用



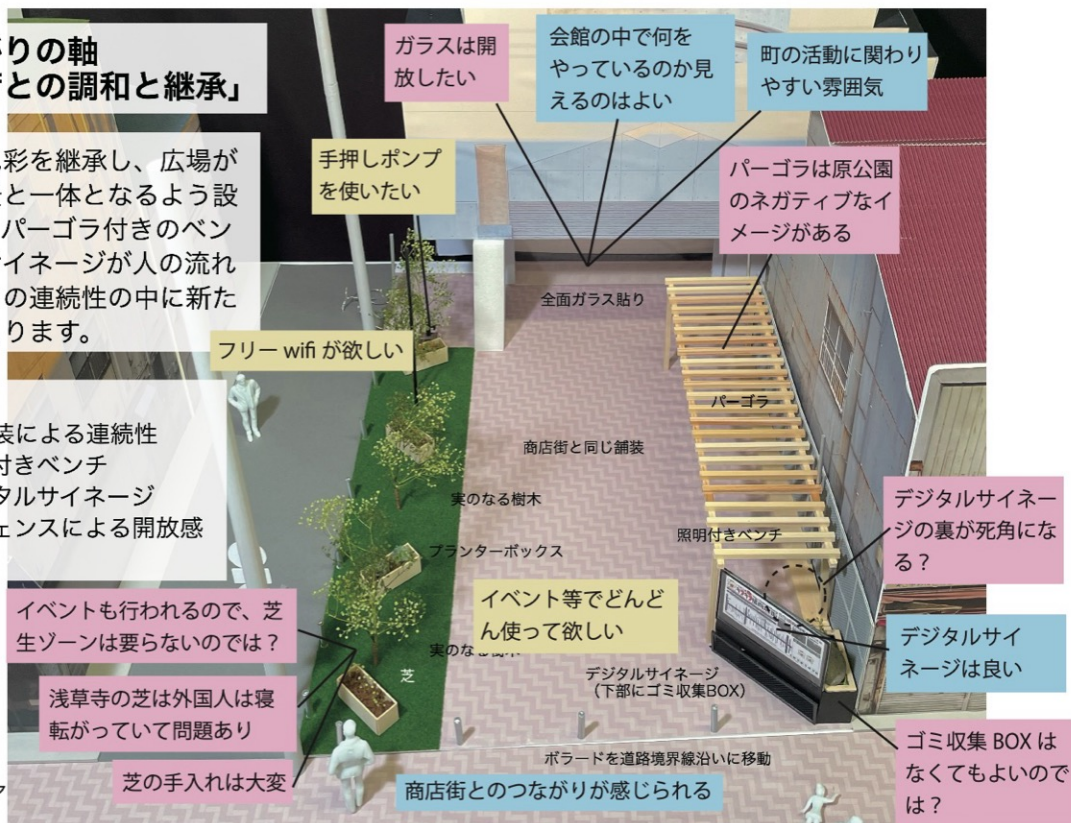
- 良い点
- 悪い点
- 改善のアイデア

B案 「つながりの軸 —商店街との調和と継承—

商店街の舗装や色彩を継承し、広場がまちの動線や風景と一体となるよう設計された案です。パーゴラ付きのベンチや斜め置きサイネージが人の流れを導き、商店街との連続性の中に新たな滞在の場をつくります。

【特徴的な要素】

- ・商店街と同じ舗装による連続性
- ・パーゴラと照明付きベンチ
- ・斜め配置のデジタルサイネージ
- ・全面ガラスとフェンスによる開放感ある構成



- 良い点
- 悪い点
- 改善のアイデア

グループワークの結果 (B チーム)

ましまし会館前広場再整備
のためのワークショップ 便利

3

C案 「まちなかオアシス —遊びと学びのグリーンラウンジ」

路地尊の向きを道
路側を正面に変え
たらどうか？

全体的にモダンなデザイン
なのに路地尊だけレトロな
デザイン。もっとモダンに
してもよいのでは？

イベント時に開い
て使える

人工芝やクッション素材、水盤など、
柔らかく親しみやすい素材を活用し、
子どもから高齢者まで誰もが安心して
過ごせる“まちなかのオアシス”を創出
する案です。地図看板や路地尊、壁面
緑化など、地域の情報発信と環境教育
の場としても機能します。

石にご利益がある
ように PR (田丸神
社とコラボして「タ
マル石」など)

人口芝やクッション
フロアを会館前方に
して商店側は車が入
れるように工夫する

丸いベンチは開け
ていてまだいい

タープは夏には
良い

クッションフロア
だと車が入れなく
なる？

植物を管理する仕
組みづくりが必要

隣の飲食店と
の関係性

人工芝が熱くなり
すぎる可能性あり

【特徴的な要素】

- ・人工芝とクッション舗装による安心・安全な広場
- ・樹木周囲の水盤とベンチで涼を空間
- ・路地尊や壁面緑化による環境演出
- ・折戸による屋内外の一体的活用

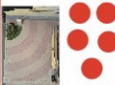
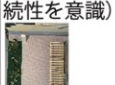
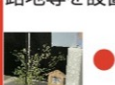
扉付きのゴミ箱が
好ましい

手間がかかれば無断
でゴミを捨てづらい

全体的に見通しが
良い

色をはっきりして
分かりやすくする

良い点 悪い点 改善のアイデア

	① 床の 舗装	② ベンチ	③ 商店 街の地 図看板	④ ゴミ 回収 BOX	⑤ 樹木・ 手押し ポンプ	⑥ ボラ ード	⑦ 会館 の境界 部分	⑧ 敷地 境界 部分	⑨ 照明
A 案	波紋 (透水性 舗装)・レイ ンガーデン 	敷地境界沿い に光るベンチ 	敷地境界付近 に壁掛けのデ ジタルサイ ネージ 	敷地境界付近 に折り畳み式 ゴミ回収 BOX 	樹木付近にし てインガー デン整備 (手押 しポンプ、石は 残す) 	敷地境界線上 に移動 	ビニールカー テンで開閉 (屋内外を一 体的に活用可 能) 	木製ルーバー で覆う 	ベンチの足下 が光る 
B 案	商店街と同じ舗装 (商店街との連続性を意識) 	敷地境界沿い にパーゴラと ベンチ 	敷地境界付近 にデジタルサイ ネージ (斜 め置き) 	敷地境界付近 にデジタルサイ ネージの下 部に設置 	樹木を残し、道 路境界線沿いを グリーンスペース とする (手押 しポンプ、石は 残す) 	現状と同じ位 置 	全面ガラス貼 り 	隣の建物の外 壁と同系色の フェンス 	パーゴラが 光る 
C 案	人工芝と川と グレー (クッ ション素材) 	樹木の周りに 水盤 + ベンチ 	現状の位置に 低い地図看板 	現状の位置に 地図看板の裏 に設置 	樹木を残し、 路地尊を設置 	現状より内側 に設置 	折れ戸で開閉 可能 (屋内外 を一体的に活 用可能) 	壁面緑化 	ボラードが 光る 

グループワークの結果 (Cチーム)

まらまら会館前広場再整備
のためのワークショップ 便利

3

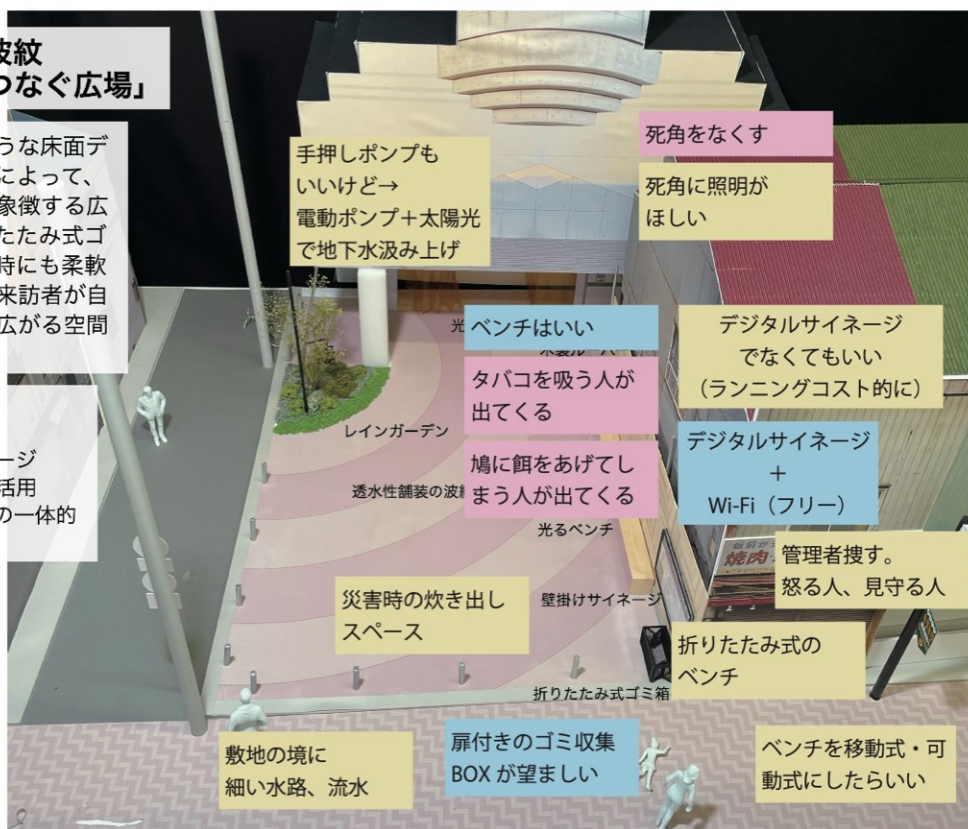
A案 「にぎわいの波紋 —光と雨水がつなぐ広場—

透水性舗装による波紋のような床面デザインと、レインガーデンによって、水の循環と自然との共生を象徴する広場です。光るベンチや折りたたみ式ゴミ箱など、夜間やイベント時にも柔軟に活用できる機能を備え、来訪者が自然と集まり、交流の波紋が広がる空間を目指します。

【特徴的な要素】

- ・透水性舗装の波紋デザイン
- ・光るベンチと壁掛けサイネージ
- ・レインガーデンによる雨水活用
- ・ビニールカーテンで屋内外の一体的利用

- 良い点
- 悪い点
- 改善のアイデア



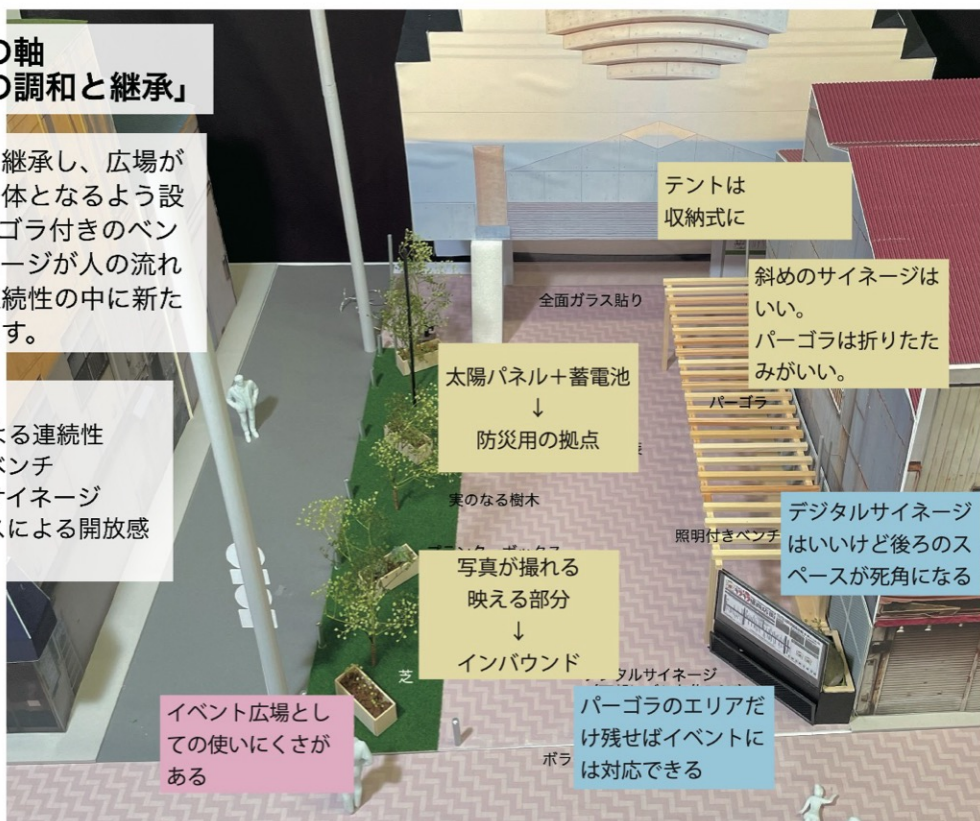
B案 「つながりの軸 —商店街との調和と継承—

商店街の舗装や色彩を継承し、広場がまちの動線や風景と一体となるよう設計された案です。パーゴラ付きのベンチや斜め置きサイネージが人の流れを導き、商店街との連続性の中に新たな滞在の場をつくれます。

【特徴的な要素】

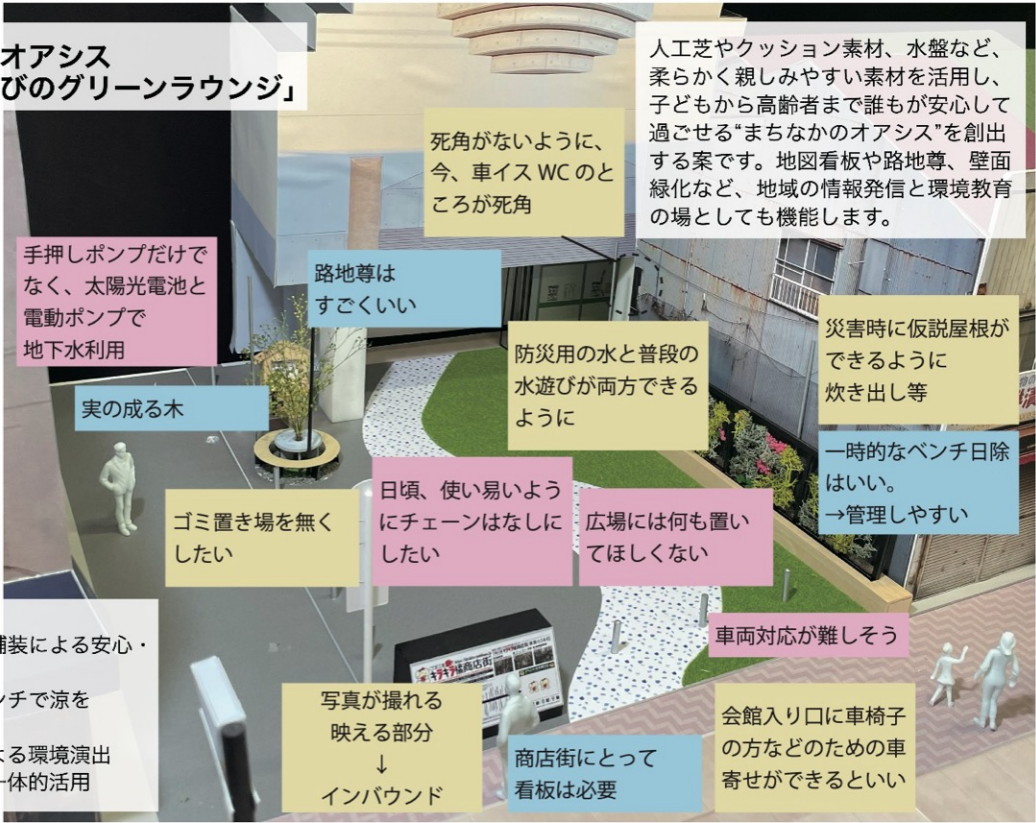
- ・商店街と同じ舗装による連続性
- ・パーゴラと照明付きベンチ
- ・斜め配置のデジタルサイネージ
- ・全面ガラスとフェンスによる開放感ある構成

- 良い点
- 悪い点
- 改善のアイデア



グループワークの結果 (Cチーム)

C案 「まちなかオアシス —遊びと学びのグリーンラウンジ」



- 【特徴的な要素】
- ・人工芝とクッション舗装による安心・安全な広場
 - ・樹木周囲の水盤とベンチで涼を空間
 - ・路地尊や壁面緑化による環境演出
 - ・折戸による屋内外の一体的活用

	① 床の舗装	② ベンチ	③ 商店街の地図看板	④ ゴミ回収BOX	⑤ 樹木・手押しポンプ	⑥ ボラード	⑦ 会館の境界部分	⑧ 敷地境界部分	⑨ 照明
A 案	波紋（透水性舗装）・レインガーデン	敷地境界沿いに光るベンチ	敷地境界付近に壁掛けのデジタルサイネージ	敷地境界付近に折り畳み式ゴミ回収BOX	樹木付近にレインガーデン整備（手押しポンプ、石は残す）	敷地境界線上に移動	ビニールカーテンで開閉（屋内外を一体的に活用可能）	木製ルーバーで覆う	ベンチの足下がる
B 案	商店街と同じ舗装（商店街との連続性を意識）	敷地境界沿いにパーゴラとベンチ	敷地境界付近にデジタルサイネージ（斜め置き）	敷地境界付近にデジタルサイネージの下部に設置	樹木を残し、道路境界線沿いをグリーンスペースとする（手押しポンプ、石は残す）	現状と同じ位置	全面ガラス貼り	隣の建物の外壁と同系色のフェンス	パーゴラが光る
C 案	人工芝と川とグレー（クッション素材）	樹木の周りに水盤＋ベンチ	現状の位置に低い地図看板	現状の位置に地図看板の裏に設置	樹木を残し、路地尊を設置	現状より内側に設置	折れ戸で開閉可能（屋内外を一体的に活用可能）	壁面緑化	ボラードが光る
その他		● 不要		●●●● 不要		●● 不要			●●●● 不要

参加者アンケート結果

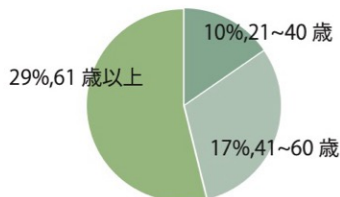
まりまり会館前広場再整備
のためのワークショップ 便り

3

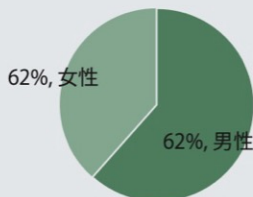
ワークショップ終了時に行った参加者アンケート調査結果の一部を以下に紹介します。

(回答者数：15 名)

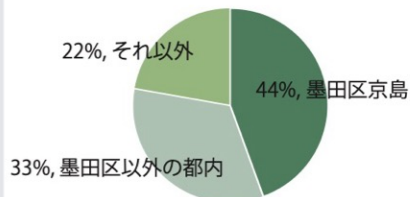
参加者の年齢層



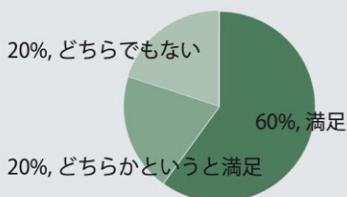
参加者の性別



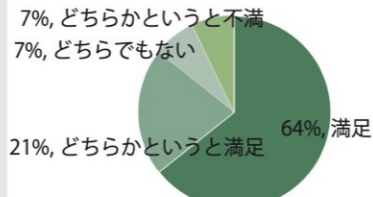
参加者の住まい



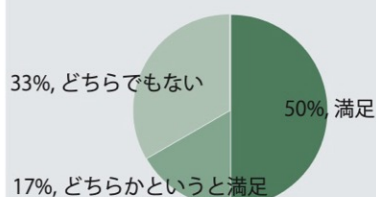
レクチャーについて



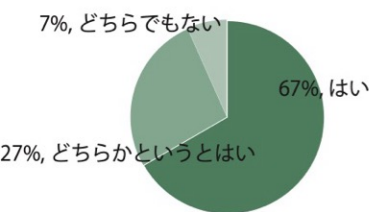
広場提案のアイデア検討について



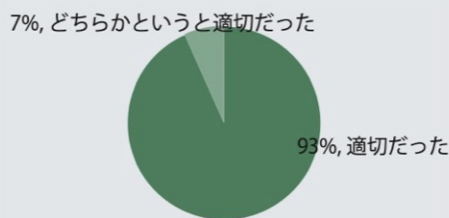
第2回までの提案は反映されていましたか



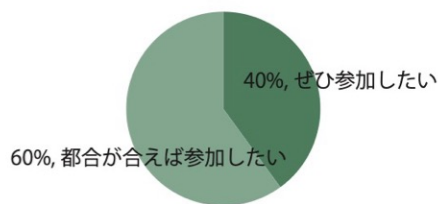
模型から将来の広場のイメージは広がりましたか



話し合いの時間は適切でしたか



次回のワークショップについて



自由記述

提案していただいた以外のアイデアの吸い上げ方法をもう少しやっていただければ、と思います。

61歳以上 男性

良い感じでした。この流れでやっていってもらえば◎

41~60歳 男性

参加者の意見をまとめ具体的な提案をしてくれているので、楽しく参加させてもらいました。今後も参加して、会話を進めていきたいと考えています。

41~60歳 男性

広場が通常でも開放されているかが分からない。会館の管理と広場の管理が一体であるか知りたい。

61歳以上 女性

狭小スペースの使用については、大きな公園とは異なる。そもそも、区の所有物件を日常的に地元住民に開放する仕組みを可能にしないと話が進まない。

61歳以上 男性

第3回までの意見について区としての見解を聞かせてほしい。

21~40歳 女性

具体的な模型があり、議論が盛り上がったので、非常によかったと思います。 21~40歳 男性

地域の人々の生活に良い形で利用できる広場ができる事を望みます。

未回答

どうも有難う御座いました。

61歳以上 女性

毎回、皆さんの発想を聞くたび“なるほど！”と思われています。このワークショップのアイデアをできるだけ実現することで皆さんに喜んでもらえる広場にしていきたいです。 墨田区

回答